

## 平成20年度第1回豊田市地域自立支援協議会議事録

日時：平成20年6月27日（金） 13：30～15：40

場所：豊田市役所 南庁舎7階 72委員会室

出席者：委員（敬省略） 平野隆之（会長）、阪田征彦（副会長）、大久保欣史、佐藤健哉、西堀哲夫、三輪喜久男、鈴木直樹、柴田義秋、岡田信子、大塚明、大西豊、杉田当代、長嶋鋭治、森下尚志、林康兵、松野俊次、天野雄二、山本多美子、寺田美雪、奥村岸孝

メンバー（敬省略） 松村健一、殿内勝夫、小西浩文、中村祥子、川北小有里、市原清香、千葉晃嗣、杉本直子、木本光宣、谷澤雄樹、市川繁夫

事務局： 岡本障がい福祉課長、石川係長

傍聴者： 土橋真

### <1 開会、趣旨、日程説明> 【13：30】

（岡本課長）

ただいまより、平成20年度第1回豊田市地域自立支援協議会合同会議を開催いたします。私は障がい福祉課長の岡本です。議事に入るまで進行を務めさせていただきます。まず、資料の確認をいたします。今日、お手元に次第と席次、協議会の資料（合同会議）と、資料編、障がい者就労生活支援センターのパンフレットと豊田市こども発達センターのパンフレット、質問用紙と封筒です。先日、郵送しました資料とは差し替えということで、机の上にある資料をお使いいただきしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは本日の予定ですが、お手元の次第に沿って進めていきますが、午後3時30分頃の終了を予定しています。なお、時間の都合上、発言の機会がなかった時のために、質問用紙、返信用封筒を用意しておりますので、何かありましたら後日郵送でご意見等をお聞かせください。会議録につきましては、市政情報コーナーやホームページで公開する予定ですので、よろしく願いいたします。

### <2 あいさつ> 【13：31】

（岡本課長）

それでは開会に先立ちまして、西山福祉保健部長より一言あいさつを申し上げます。

（西山福祉保健部長）

～ あいさつ ～

(岡本課長)

ありがとうございます。それでは、豊田市地域自立支援協議会の平野会長よりごあいさつをお願いいたします。

(平野会長)

ただいまご紹介をいただきました日本福祉大学の平野です。どうぞよろしくお願ひいたします。年度の最初ということで、今回は新しい委員の方たちが来られていますので、一言だけお話したいと思ひます。今日、最後の議題になりますが、豊田市は厚生労働省から調査研究事業がいただけることになりました。それは、自立支援協議会はいったいどういふものであるのかという定義を始めとして、豊田市が全国の自治体、あるいは他の自立支援協議会に対してメッセージを送るために設けられた研究の助成なのではないかと思ひております。もちろん、我々自身が、より良い自立支援協議会を作るために検討するということが含まれているわけですが、国から見ても、この豊田市地域自立支援協議会に期待がかけられるのではないかと思ひます。ここにお集まりの皆さんで、こういうものは自立支援協議会に必要なよねと発信していただいたら、他の自治体の役にも立つのではないかと思ひますので、ぜひ協力をお願いしたいと思ひます。

(岡本課長)

ありがとうございました。

### < 3 新任委員紹介、委嘱状伝達、新任委員あいさつ > 【 1 3 : 3 3 】

(岡本課長)

続きまして委員の交代による新任委員の紹介をさせていただきます。この6月より、寺脇委員に代わりまして大久保委員、伊藤委員に代わりまして鈴木委員、北村委員に代わりまして天野委員、倉橋委員に代わりまして寺田委員、幸村委員に代わりまして奥村委員が就任されました。それでは委嘱状の伝達をいたしたいと思ひますので、西山福祉保健部長より委嘱状の伝達を行います。

～ 委嘱状伝達 ～

(岡本課長)

新たに就任されました5名の委員の皆さん、これからよろしくお願ひしたいと思ひます。新任の委員の方、大久保委員から一言ずつ自己紹介をお願いします。

(大久保委員)

ハローワーク豊田署の専門援助部門の統括職業指導官で、この4月からまいりまして業務をさせていただきます。私どもの専門援助部門におきましては、この協議会と大変関わりが深いところでございますので、今年度もよろしくお願ひしたいと思ひます。

(鈴木委員)

青少年相談センターろから来ました鈴木直樹といます。豊田市ではパークとよたという通称で呼ばれており、主に小中学生の相談業務、青少年補導、ふれあい教室を行っており、不登校のお子さんたちの通ってくる施設です。よろしくお願いします。

(天野委員)

障がい者就労・生活支援センターの天野と申します。この4月からお世話になっております。センターの説明は後ほどさせていただきますのでよろしくお願いします。

(寺田委員)

豊田加茂児童障がい者相談センターの寺田といます。この4月から参りました。4月から地方機関の再編ということで、障害者相談の窓口も行うことになっています。よろしくお願いいたします。

(奥村委員)

福祉事務所長の奥村と申します。先ほど平野会長が申されましたように、私どもはこのネットワークで、何とか成果を出していけたらと思っておりますのでご協力をよろしくお願いします。

(岡本課長)

ありがとうございました。

#### < 4 欠席委員の紹介 > 【13:40】

(岡本課長)

本日は、運営委員では障がい者相談員の伊藤委員、豊田市社会福祉協議会の長嶋委員が、担当者会議メンバーでは、つえの里の渡辺さん、日本福祉大学の佐藤さんから欠席の連絡をいただいております。なお、渡辺さんの代理としましては、中屋さんにご出席をいただいておりますのでよろしくお願いします。

ここで部長は所用がありますので、退席させていただきますのでよろしくお願いします。

#### < 5 議事 > 【13:40】

(岡本課長)

それでは、議事に移ります。ここからの進行につきましては平野会長にお願いします。よろしくお願いします。

#### < 6 定足数の確認 > 【13:40】

(平野会長)

それでは、定数の確認をお願いします。

(岡本課長)

本日の協議会ですが、運営会議につきましては19名の委員のご出席をいただいております。所属委員21名の過半数の出席いただいております。担当者会議につきましては

12名のメンバーの出席をいただいております、14名の過半数の出席をいただいております。

豊田市地域自立支援協議会要綱第8条第2項に基づき、有効に成立いたしております。

#### <7 会議の公開> 【13：40】

(平野会長)

また、本日の会議に傍聴の申し出がありました。豊田市におきましては審議会等は原則公開をするということになっておりますので、本日の会議の傍聴も許可してよろしいでしょうか。

～ 異議なし ～

(岡本課長)

ご承認いただきましたので、傍聴者の入室を許可いたします。

～ 傍聴者入室 ～

#### <8、議事録署名者の氏名> 【13：43】

(平野会長)

ありがとうございます。議事録が公開されますので、本日の議事録署名者2名を私から氏名させていただきます。本日の議事録署名者は西堀委員と松野委員の両名にお願いします。よろしくをお願いします。

#### <議題1 情報共有 重症心身障がい児(者)の現状と課題について> 【13：43】

(平野会長)

それでは、議題1を始めたいと思います。

豊田の自立支援協議会では情報共有を行っています。前回は、養護学校の現状と課題についてということで、大変勉強になったのではないかなと思います。皆で共有しておいたほうがいい、もうちょっと深い専門的な知識を持ったほうがいいというテーマについて考えていこうという主旨で設けられているものですが、今日は「重症心身障がい児(者)の現状と課題」ということで、特別に専門の先生にもお越しいただいておりますので、お願いいたします。

(三浦医師：こども発達センター医師)

～ 「重症心身障がい児(者)の現状と課題」について説明 ～

(資料編 6ページから23ページ参照)

(平野会長)

それでは、三浦先生と意見交換をしたいと思います。

実は私は今から3年くらい前、自立支援法が導入される時に、重心の人がどれだけ在宅で費用がかかっているかという調査をしたことがあります。まず、今の報告を受けて養護学校では豊田養護学校が一番関連があると思いますが、ご感想、補足でもありましたらお願いします。

(佐藤委員)

三浦先生には先日学校に来ていただいて医療的ケアの様子を見ていただいたのですが、本校には今、十数名医療的ケアの必要な子がおります。前回の協議会でもお話をさせていただきましたけれど、医療的ケアの必要なお母さんたちをケアするというのが、本当に大切であると思います。学校の方では、完全に週5日間医療的ケアができる状況じゃないものですから、その部分もまた改善をしていかなければいけないと思っています。色々な課題がありますけれど、三浦先生の力をお借りして少しでも改善していけたらなと思っています。

(三浦先生)

お母さんのケアに対しては本当に大事だと思いますけれども、医療的ケアを必要としているお母さんたちは毎日のケアだけでいっぱい状態、余裕がないんですね。実は愛知県にも医療的ケアを考える会という親御さんの会があり、年に何回か定期総会をやって、勉強会をしたりしています。けれども、そこにすら参加できないお母さんたちも結構いらっしゃるし、毎日の日々の疲れで病気になっている人もいらっしゃるということで、非常にそこは大きな問題かなと思っています。

(平野会長)

豊田の養護学校に通っておられるお母さんたち同士の集まりとかはあるんでしょうか。

(佐藤委員)

医療的ケアが必要なお子さんをお持ちのお母さんは、必ず、朝一回保健室に来ますので、そこで顔を合わせるというところで情報を共有している方はいますけれど、全員一緒に揃ってというのはなかなか難しいです。

(三浦先生)

前に僕が指導員をやっていた学校ですと、僕が指導員に行った時にお母さん達を集めてもらうようにしていました。なんとか来てもらうことにより、お母さんたちに仲間になってもらって、学校の責任者とやりとりをしたりしていく中で、みんなが情報を共有して連帯感を持つことができました。今後、豊田養護学校でもそういう形ができれば本当はいいかなと思っています。

(平野会長)

今日の学びは1点目としては、パワーポイントのほうでは直接触れられませんでしたけれども、お母さん達へのケアが大切で、ここでの議論は主に非医療職でやっていますけれども、その人たちが対応すべき、対応できる領域のひとつだというふうに思いますので、継

続いてひとつ考えていきたいと思います。他に何かご質問等ご意見はありませんか。

豊田市には、重心の人を支えるための市の単独の事業は何あるのでしょうか。

(岡本課長)

重心の人を支えるということで、暖という旧知的通所更生施設が市内にあります。豊田養護を卒業された重心の方の日中活動の場が無いということで、豊田市の福祉事業団へ委託をして、かなり手厚い処遇の中で支援を行っています。

(平野会長)

先生は暖という施設はご存知ですか？

(三浦先生)

もちろん、暖も関わっておりますので知っております。暖は非常に看護師さんの数も多いですし、非医療職の方もよく勉強してくださっています。ただ、暖も今定員いっぱい、豊田養護学校に在籍されている医療的ケアが必要な方たちが今度卒業したときに行くところがあるかといったときに、困るかなという現実が市としてはあるのかなと思っています。お母さん達にもちょっと不安といわれた方もいらっしゃると思います。低年齢の人はもっともっと多くいらっしゃると思いますので、今後、卒業される方も増えてくるということで、政策をなんとか広げていただけたらうれしいかなと思います。

(平野会長)

重心の方々の計画上の推計みたいなものは、比較的他の障がい者の人に比べてはっきりしているので、分かりやすいのではと思いますけれども、自治体が重心の方の将来の予測などをして比較的うまくやっているという事例を先生はご存知でしょうか。

(三浦先生)

全国の重心の数値データとして愛知県の数値を使っているくらいなので、他にやっているとところは少ないかもれませんけども、東京では、都庁に重心を専門に扱っている部署、重心対策課とかがあって、そこが入所希望者をリストで持っていて、ここが空いたらお宅のほうねってようなコーディネートしている部署があるようです。東京には医者もたくさんいますし、施設もいっぱいありますし、ちょっと別格かなという感じはしていますね。

(平野会長)

豊田は中核市ですね。中核市クラスで先駆的なところはありますか？

(三浦先生)

県が、県下の状況を全体把握して、コーディネートしているというようなところはあります。例えば、滋賀県ですが、滋賀県の人口は 100 万くらいで、誠に大きな福祉の団体があったりするとやれてくるのかなと思います。全県下把握するという規模でやらないと数としては少ないので、なかなか対策も立てにくいのは仕方ないです。中核市のように人口が 40 何万人くらいで重心の方が百何十人。その中で非常に重い人は 10 人とか 20 人という数字になってくると、なかなか実際計画を立てにくいのかなとも思います。でも、計画が

あると、重心をやっている医者からすると非常にありがたいのかなとは思いますが。

(平野会長)

障がい福祉計画を今年度、再度策定し直すということですが、重心の人だけを取り出すっていうわけにはなかなかいかないわけですが、その中で重心の方の推計はとらえられますか？自立支援法っていうのは横三障がい横断的に捕らえるということで、どうしても、いい面と三障がい一緒となり、埋もれてしまうという問題あると思います。これは計画上、この協議会でご提案申し上げられるかどうかっていうのはよくわかりませんが、先生のお示しになった18ページの先ほどのネットワーク図、重症児の地域ケアシステムの豊田の仮の絵が描かれていますね。こういうシステム的なものを豊田市としては、考える余地はあるのでしょうか。あるいは、自立支援協議会ももうちょっと研究して何かご提案するというほうがいいでしょうか？

(岡本課長)

今年度は第2期の障がい福祉計画を作成するわけですが、何年後に何人ぐらい卒業されるという数字はある程度はつかめています。数字をただ予測するだけではなくて、その人達が行ける場所を用意するという方策・施策を計画の中にある程度盛り込むようになってはいるので、今年度検討していくこととなります。こういったシステムということは、これも連携ということになりますので、地域の方の在宅を支える関連のみなさんが集まるこういった協議会の場でも意見を言っていて、考えていきたいと思っています。それと医療の関係ですけれども、成人の障がい医療についての課題を福祉事業団と協力して、現在検討中でございます。

(平野会長)

先生にご指摘された短期入所ですが、急に必要になったという場合、問題が結構大きいと思います。こういう医療的ケアの必要な人の短期入所について、こういう仕組みを作ったらうまく調整できるのではないかというようなことを先生はご存知でしょうか？

(三浦先生)

重症児施設が多くあるところは、例えば100床入所施設があつたら、短期入所を10床とか15床とか持っている訳ですから、そこをグルグルグルグル回して、地域の親御さんのレスパイトを提供することもできます。九州のある県だったですけども、毎週、使うという人もいるくらいで、非常に恵まれたところではお母さん達が毎週ゆっくりできる時間が持てるというところは実際あります。それは医療機関としての重症心身障がい児施設がかなり役割を果たしているところだと思っています。豊田地区では、そういう施設がない中でどうするかというのは、やはりみんなで知恵を出さないとなかなかうまくいきません。小児科という立場から言うと、呼吸器をつけてる人達を看護師さんがいないとこで夜預かれるかといったら、とても怖くて預かれないと思うんですね。やはり医療機関として預けられるところを開拓していくことが必要であるのではと思っています。暖の職員の方達もなんとか、何とかこの地域の医療機関のネットワークを作ろうと施設として動いていらっし

やいますけれども、もしかするとシステムとして市が主導でやってくれればもっと確実に  
なるかなという気はします。他の地域ですが、私がコロニーにいた時にある地域の老人病  
院で見てもらえることになった方がいました。これは、たまたま、その病院の訪問看護を  
使っている関係で、なじみになって「うちでみれるよ」という流れになったようです。障  
がい者専門の機関というように捉えるとなかなかないってことになりましてけれども、一  
般の療養病棟とか、他の病院を仲間に引き込めれば、もしかすると何かみえてくるかもし  
れないなあと思っております。

(平野会長)

福祉的な施設のショートステイに、訪問看護師を派遣するというような感じでやるとい  
うのはそう簡単なことじゃないのでしょうか。

(三浦先生)

作戦としてはありえるかなと思うのですがけれども、やはりかなり重い方たちですと不安  
ではないかなという気がします。看護師さんたちは病院で医者の下で働くというのに慣れ  
ている職種の方たちですので、医者がいないとかなり重い人たちを看護師さんだけ  
の全責任でみることに、かなりプレッシャーは感じるはずだろうというふうには思  
います。バックアップをどれくらいしてあげるかというのに尽きるかなと思いますが、今  
は看護師不足ですし、そういうところに入ってくれる看護師さんが見つかるかどうか  
も厳しいかもしれません。この辺りの方は、短期入所でコロニー、こぼと学園を利用され  
ていますが、かなり遠くなので、連れて行くだけで大変ということも聞きます。地域の近い  
ところで安心して任せられる仕組みが欲しいなと思います。重心の数は決して多くないの  
で、必要な機関をうまく利用することで豊田の独自のシステムがくれたらすごいなと思  
います。

(平野会長)

先生が、先ほどおっしゃったように医者も病院の中だけでなく、地域へ出ていただいて  
ということで、それこそ三浦先生が豊田市にきていただいているこの時期に、この領域に  
ついてのネットワークを強化するというとてもいい時期じゃないかと感じています。西宮  
に、とっても有名な重心の取り組みがあつて、社会福祉協議会が事業をやっているの  
ですが、そこでは地域ボランティアの人たちが、重心の人たちの外出支援であるとか参画を支  
えておられます。医療的ケアの問題ももちろんあるわけですが、我々としては地域の  
人たちがそういう問題への関心を持っていただくということも、ひとつの大きな課題か  
なというふうに思っています。何かご質問とかよろしいでしょうか。ぜひ、機会があれば  
重症児地域ケアシステム懇談会のような会を、今日をきっかけに確保していただけたら  
と思います。この自立支援協議会の中の部会という形で取り上げるというのはそう簡単では  
ないんですけども、懇談会が開かれるような条件整備を、自立支援協議会としてバック  
アップしていきたいなと思います。

(三浦先生)

この医療的に一番手のかかる子たちのシステムができ、これがうまくいけば、もう少し手のかからない方たちっていうのはもっとうまく回っていくんじゃないかなと思います。今の知的障がい施設の方でも気管切開になってしまった人とかもいますし、普通の三好養護学校のような知的障がいのところにも医療的ケアが必要な人も実際にはいらっしゃるし、他の地域で新聞記事になりましたけれども、気管切開をしている人が普通の学校に行くというようなことも、少しずつ増えてくると思いますので、ぜひ私としてはこれを機会にそういうシステムが出来てくれることを期待しております。ありがとうございました。

(平野会長)

このメンバーの中で、そういう懇談会があったら自分は参加したほうがいいのではないかと、そういう懇談会があれば自分は何かちょっとした力が出せるのではないかと、あるいはそういう問題に関心があると思われる方は手を上げていただけたらと思います。結構みえますね。心強いです。

今日は先生に貴重なご報告いただいて、重心の問題は、我々の自立支援協議会の課題でもあると思いますので、今後とも先生と連携しながら、何とか重症児地域ケアシステムの懇談会みたいなものにも着手してみたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

#### <議題1 情報共有 障がい者就労・生活支援センターの現状と課題について>

【14:45】

(平野会長)

それでは、引き続き次の議題に入りたいと思います。時間が予定よりは15分ぐらいオーバーしてしまいましたので、ちょっとテンポをあげていきたいと思います。障がい者就労・生活支援センターの現状ということでご報告をいただくとともに、議題2で就労支援部会の準備会の設置についてということ協議する予定ですが、ここを前提として協議したいと思っておりますので、お願いいたします。それでは、ご報告を天野委員からお願いいたします。

(天野委員)

～ 「障がい者就労・生活支援センターの現状と課題」について説明 ～  
(資料編 24ページから26ページ、及び別添パンフレット参照)

#### <議題2 就労支援部会準備会の設置について> 【15:00】

(平野会長)

それでは、就労の問題をこの自立支援協議会の重要な課題だというふうに認識いたしまして、引き続き議題2の就労支援部会準備会の設置についてに移ります。今までは課題検討部会という一般的な課題を検討する部会しかなかったのですが、自立支援協議会の中に、

今回始めて、専門でそれを論じる、考える、そういう部会を提案したいということです。これは阪田副会長の方からご提案いただきます。

(阪田副会長)

それでは、就労支援部会準備会の設置ということで、4ページをご覧ください。まず、就労支援部会を立ち上げるにあたって、なんでこんな準備会を用意せないかんかという話をしたいと思います。先ほど、天野さんの方からの課題のところでもいくつかキーになるところをあげていたと思いますけれども、やっぱり何を、どういうところをこの部会は議論するんだということ、方向性は何だということをきちんと精査してやらないと、立ち上がって「じゃあなにすんねん」みたいな話になってなかなか進まないという状況が心配されますので、まずは就労支援部会を立ち上げるにあたっての準備会をここで承認していただきたいということです。4ページのほうにも書いてあることなんですが、それにあたって、就労に関する地域の課題の整理をまず優先します。この豊田の地域にどんな企業さんがあって、どういう産業が得意かとか、豊田の地域の課題は何なのかとか、役割とかを明確にしていかないと就労部会を立ち上げててもなかなか前に進まないだろうということです。それから最後に、構成メンバーの検討ですね。そういった準備を経て、はじめて部会ができるのかなと考えております。その辺のことを掻い摘んでお話ししたいと思います。27ページからの資料になります。まず1番に、豊田市における就労支援の現状課題ということですが、ネットワーク機能が十分機能していないんじゃないかということなのですが、豊田には、就労・生活センターという立派なものがあります。愛知県で言うと、就業・生活支援センターというところを、福祉圏域に一つ持とうということになってまして、今県内全部で5、6カ所です。まだ、県内6ヶ所しか整備されていない状況の中で、豊田市がそれと同じような機能を持つ、就労生活支援センターを市単独で持ったという経緯があるので、決して就労に関して遅れている地域じゃないってことをご理解いただいた上で説明したいと思うのですが、それでも、就職となると、ただ就職すればいいという問題ではないと思うんです。一番大事なのは就職し続けるということ。その人が、安心して暮らそうと思うことです。自分が入りたいところに入ってよかったなあだけじゃなくて、見守りの支援体制をちゃんと組まないことには決して就労支援できたというふうには思いません。ですから、その辺の現状を踏まえて、やはり生活支援という視点の立場が非常に大事かなと思っています。そういう意味でのネットワークが、まだまだ足りないのかなということです。その辺の再構築をやっていきたいということです。それをやろうと思うと、相談支援事業者が就労支援に関しての知識をどんだけ持っているかということになりますけれども、僕も含めてですけれども、皆さんあまり詳しく知らないというのが実際の現状というのが分かってきました。相談支援事業者の方もしっかり勉強しなきゃならないということにもなりますし、そういう意味の知識をこの協議会のメンバー皆さんにも、十分に理解してもらうことも進めなきゃいけません。そうでないと、全体に伝わっていかないし、人材養成にはなっていないと思います。それから、後でハローワークの方とも議論したい

と思いますけれども、豊田市には企業がたくさんあると思うんですが、その企業が本当に障がい者のことをわかっているのか、関心があるのかなということだと思います。それに対してで、普及、啓発をこちらが、我々がやっていかないと就労支援には結びついていかないとと思います。

結論的に言えば、この 2 番の書いてあることになります。連携が必要なんです。特に専門的な業務なので、専門部会を立ち上げることを検討したいということが 1 点目。2 点目は、先ほどとだぶりますけれども、「立ち上げてなんぼや」という話でもないものですから、急に立ち上げることは難しいということです。まず準備会を置いて、そこできちんと就労支援部会で協議する事項と課題検討部会で協議する事項を整理した上で、改めて 11 月に運営会議に提案したいというふうに思っております。それから、予算ですが、もしお金が必要となれば、来年度の予算に間に合わせないといけませんので、早急に協議することが必要になるということになります。以上の論点を踏まえて、担当者会議のメンバーを中心に設立準備会を立ち上げることをここで提案したいと思います。

あと 3 番は、当面の作業課題と書いてありますが、当面かもうちょっともっと先になるかわかりませんが、今、担当者会議のメンバーで、3 グループに分かれて週 1 回課題検討を行っています。その一つに、就労支援部会の立上げに向けたグループがありますので、それを継承するかたちで準備会ができないかと考えております。作業内容としては以下の 4 点です。まず、活用できる制度を整理したいなということで、国の制度や市単独の制度が実はいっぱいあって、僕もなかなか整理しきれてないんです。はたまた事業所レベルで制度でもないものを絡んでやっているところもあり、その整合性は何かということ整理したいなということがまず 1 点です。それから、就労支援に関する現状把握ということで、豊田市には機能している就労・生活支援センターがありますので、その実績の整理と、事業所ごとで行っている就労支援を整理していきたいなということです。どこまで完璧なものにできるかわかりませんが、できれば、就労支援に関するマニュアルを作りたいとも思っています。それから、障がい者雇用を取り巻く企業と事業所などの現状把握ということで、どういう形かちょっとわかりませんが、とにかくニーズをちゃんと把握して、現状把握をしていきたいということを考えています。ちょっと時間がなくて申し訳ないですけども以上です。

(平野会長)

ありがとうございました。先ほどの就労・生活支援センターに対する質問でも結構です。ただ、この議題 2 は協議事項なので、部会の準備会を設置するかどうかを決めないといけませんので、その点特にご意見のある方は必ずご発言いただければと思います。どうでしょうか。

テーマとしては先ほど就労・生活支援センターのほうからご指摘があった相談支援事業者との役割分担、あるいは連携もこの部会の中で明らかにしていくということも一つなんではないかということですし、就労・生活支援センターのワーカーも含めて相談支援事業

者のワーカーのスキルアップという部分も大きな課題になっているということです。何かご質問、ご意見ありますでしょうか。養護学校の方でこの部会に関してご質問等ないでしょうか。

(三輪委員)

推進していただければありがたいです。

(平野会長)

どうもありがとうございました。ハローワークの方はいかがですか？

(大久保委員)

ハローワークのほうで、最近非常に言われていることは、やっぱり就職にあたってのチーム支援という言い方をされておまして、ハローワークだけではなかなか就職ができないという現状もございます。昨年以降は、就労支援センターさんのほうと連携させていただいて、お互いに相互の力を合わせて就職・就労をさせていただいていますが、こういったことで、私どもが支援機関のみなさんと一緒に連携をさせていただいて、多くの方が安定した就労になればいいのかなと思いますので、ぜひお願いしたいと思っております。

(平野会長)

今日は合同会議ですので、相談支援事業者の方もこられていると思いますけれども、就労支援部会の準備会の関連で協議に参加された方、手をあげていただけますか。では、その女性の方、どんな発言でもいいですのでお願いします。

(中村さん)

就労支援部会の立ち上げ準備会の準備ということで、先ほど言われたよく分からない国の制度を整理している段階なので、自分もわからないことがたくさんあるのですが、そういうことを充分整理しながら、皆さんと一緒に少しでも力になれるかわからないのですが、やっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(平野会長)

変な質問かもしれませんが、何が一番わからなかったんですか。

(中村さん)

色々な制度が絡み合っているのもあるし、そういった部分でもわからないこともたくさんありました。

(平野会長)

おそらく、従来の厚生行政だけなら簡単でしょうが、労働行政の方から出ているいろいろな仕掛けもたくさんあるし、働くということを通じた福祉の実現っていう段階をこの場で考えていただくということになるんだと思います。他にご質問ありますでしょうか。

(松野委員)

とてもいい部会だと思いますので、ぜひ設置をしていって欲しいと私も思っています。一つだけ質問ですが、予算化という話があるのですが、具体的にどのことを想定されていますか。

(阪田副会長)

僕の意見だけ言ってもいけません、やっぱりこういうことは何かというと、僕は人だと思っています。先ほど天野さんが課題を言っていましたけれども、ジョブコーチさん、職場開拓員がみえるんだけれども、とてもとても手が足りないという現状があったりします。具体的にちょっと話しますと、ジョブコーチさんは今フル回転でやってみえると思うんです。それだけで足りないから、例えば、私が今やっている事業所と連携して、うちのスタッフが行ったりとかもあります。でも、それにかかる対価っていうのは何もない状況で、半分ボランティアみたいなことをやっています。それが、今だけならいいけども、継続的にやれるかどうかということになると、ちゃんと予算化して人的な配置しないと難しいかなと思っています。そういう意味も含めてです。

(松野委員)

今、厚生労働省が障がい児支援の見直しに関する検討会をやっていますよね。あの検討会に出席していた時に出てきた話なのですが、ちょうど今、養護学校の学生の職場体験実習の時期だと思いますけれども、そういうものを支給決定して、その日のお金、予算を出していこうというのを検討しているみたいです。もしそのようになってくると、受ける企業側もいいだろうし、送り出す側もやりやすいのかなと思います。そういったことも情報を集めながらという方向ですね。

(平野会長)

ありがとうございました。おそらく最初におっしゃったネットワークの構築というか、先ほどの重心の例も全く同じだと思いますが、医療と福祉という両方から情報を集めないと重心の問題を解決できないように、障がい者の就労の場合は、さらに養護学校と言うもう一つの核がちょうどでてきますし、ハローワークの領域も出てきますので、色々なところが協力し合いながら課題を解決していく。簡単に言うと、豊田市ほど事業所、企業がたくさんある地域はないのです。変な言い方ですけども、地域によっては、就職先が実はあまりないというところだっただけたくさんある訳です。これだけいろいろな事業所がたくさんある地域で、就労支援の成果が上がっていないということはおかしいということになりかねないのです。時間の関係もあって、準備会を設置し、就労部会の設置準備を行っていくということによろしいですか。

(阪田副会長)

そうですね。部会の設置については11月以降の協議会で承認を得たいと思います。

(平野会長)

それでは、11月以降の協議会で最終的な部会の承認を得たいという計画だということで、ぜひこの協議会の構成メンバーの中で、色々なメンバーの支えによってこの準備会がきっと進んでいくんじゃないかというふうに思います。そういうような趣旨ですので、協議事項なので皆さんの賛成を取りたいと思いますけれども、もし賛成いただければ拍手をお願いします。

～ 一同 拍手 ～

どうもありがとうございました。

### <議題3 担当者会議からの報告について> 【15：15】

(平野会長)

それでは、議題3に移ります。これは報告事項で、担当者会議からの報告がいくつかございます。それでは、まず地域生活支援事業の見直しという点で、松村さんからお願いします。

(松村さん)

豊田市社会福祉協議会の松村です。担当者会議から報告をさせていただきます。

それでは、「地域生活支援事業の見直し」と「障がい福祉サービスに関するQ&A集の作成について」ということをご報告をさせていただきたいと思っております。それでは簡単に説明をさせていただきます。まず、「地域生活支援事業の見直しについて」ということで、これにつきましては資料編の29ページ、それから30ページをご覧いただきたいと思います。平成19年度にサービス検討会議の中から出てまいりました個別課題、それから地域課題について集約をさせていただきました。これらの課題の解決を図っていかなくてはならないということで、今年度は、日中活動とそれから移動支援のワーキンググループを担当者会議のメンバーが分かれて作成をし、毎週1回水曜日に課題の検討をしながら、解決策を話し合っています。これにつきましては、解決策がまとまり次第、担当者会議の中で全体検討をして運営会議に諮っていきたく思っております。

それから2点目ですね。「障がい福祉サービスに関するQ&A集の作成について」ということで、1番目の「地域福祉生活支援事業の見直しについて」と絡んだ話でございます。サービスの見直しを含めて、福祉サービスを利用するにあたって、もしくは提供するにあたってのQ&A集を作っていきたいということです。資料編の31ページにこんなようなものということで例が載せてあります。これまでも豊田市の場合は、支援費時代にQ&A集を作成しましたがけれども、それから制度も大きく変わっておりますし、内容も大きく見直しをされている部分がございます。今回、新たに地域生活支援事業の見直しを図り、サービスの内容を改めて検討したことも含めて、Q&A集を作成していきたいと考えております。こういった作業を順次進めておりますので、また順次報告をさせていただきます。以上です。

(平野会長)

ありがとうございます。サービス検討会議は、どちらかというと困難なケースとかの検討をやっているというような理解でよろしいんですか。

(松村さん)

サービス検討会議につきましては、サービスの支給量を前提に検討をする会議でありまして、その中でサービスの量だけではなく、色々な個別課題、地域課題が見えてきますの

で、その課題すべてを取り上げ、集めて検討しております。

(平野会長)

そうすると、ここでいう対象者数のうち、検討件数っていうのは例えば1行目だと55人のうち10件とありますが、仕組みを変えたりなんかしないといけない件数がこの10件だったとそういう意味ですね。それが要約されたものがここに書いてある。そのうち、移動支援と日中活動については具体的検討を始めているということですね。

(松村さん)

そうですね。サービス検討会議は、今も毎月3回やっております、そのたびに現在も課題がでてきております。新たな課題が出てきたところでまた検討していくということで、これはずっと続いていくことではないかとも思っております。

(平野会長)

その検討結果については、次回の8月の自立支援協議会の中では出そうですか？

(松村)

そうですね。次回に一部でも提出させていただきたいと考えております。

(平野会長)

わかりました。具体的な内容は次回ということで、今2つのテーマ、移動支援と日中活動について課題をまとめているということですが、何かご意見、ご質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。検討結果を聞いてということで閉めさせていただきます。Q&A集は、当然必要になりますのでやっていただけたらいいかなと思います。

最後の議題になりました。冒頭、私のほうから少し触れましたけれども、32ページのところで豊田市のほうが申請をされて、厚生労働省の調査研究プロジェクトが無事を取れたということで、これも松村さんの方から説明をお願いします。

(松村さん)

簡単に説明させていただきます。障がい者地域自立支援調査研究プロジェクトの採択についてということで、この中でどういったことを研究テーマとして出させていただいたかといいますと、冒頭で平野先生がご説明くださいましたように、自立支援協議会をどのように運営していったらいいかというようなことを研究しようということで、今回障がい福祉課さんのほうから提出をいただきました。この地域自立支援協議会の中で、調査・研究をして、その結果を出していくということで考えておまして、予算額は270万円、来年の3月末までに内容をまとめたいと考えております。内容としましては、豊田市流の地域自立支援協議会運営マニュアルの作成を考えております。先ほど説明をさせていただきましたけれども、豊田市にはサービス検討会議があり、サービスを利用されている方全員の状態を1件1件確認をして、そこに個別課題・地域課題がないかということをも1月に3回会議を行いながら、相談支援事業者のワーカーの目で見えております。この中から出てきた地域課題、個別課題を検討するその仕組みを、豊田市の特徴として特に取り上げて自立支援協議会の中で大きなテーマとしていって、それをひとつの研究のテーマというか目標

というかにしていきたいなど考えて、この事業のエントリーをさせていただいたというところでございます。以上です。

(平野会長)

ありがとうございました。特に今日ご参加の人に直接関係する点でいうと、③事業内容の1の「地域自立支援協議会の定義化に関する研究」ということで、①相談支援事業と自立支援協議会との関係、それから、前回の施策審議会の会長である大友先生が傍聴に来られてまして、ぜひ施策審議会に自立支援協議会の色々なご意見を反映させたいというお話をいただきましたけれども、豊田の場合には実際に施策を検討するという施策審議会と、むしろ、それを積極的に進めていくというこの自立支援協議会の役割がうまくできるということはとてもいいんじゃないかと思います。先ほどの松村さんの話を受けると、さらにその下に相談支援の個別検討みたいのところから、順々にボトムアップされていくような仕組みってというのが豊田の特徴だということかと思います。最後③ですね、ちょっとラインマーカーをお願いしたいと思いますが、参加委員による自立支援協議会の自己評価をやるというふうに書いていますので、皆さんに場合によっては自立支援協議会の運営や意識調査、はたしてうまくいっているのかということ「5段階で評価しろ」みたいなかたちで、自己評価を取りたいということですので、進め方とか何かを改善する案をその中に見つけいきたいと思います。また、このメンバーの中で他の自立支援協議会等を見学しに行きたいというふうなご希望があれば、ここでは東松山とか、東広島とかいくつか有名なところが載っていますけれども、そういうところを調査に行っていただければと思います。それから、近隣でやられているところのところと合同の研究会をしたいという内容も書いてありますので、例えばここだと豊橋とか三好、東三河や西三河などと協力をしていきたいというふうに思っています。最終的にはこの費用の多くは、先ほどおっしゃったような運営指針の資料作成の印刷代がもっとも大きな用途だというようにご理解ください。

情報交流の中で新しく生まれてくるもの、先ほどの重心の懇談会などもこの一貫でサポートできるんじゃないかというような気もしていますし、できるだけ、この会議がうまく行くだけではなくて、この会議から生まれていくもの、さっきの就労部会やその準備会もそうですけれど、そういうのがうまくいくといいなと思います。これは、報告事項なのでみなさん報告しておきたいと思いますし、そういう研究事業に参加したい人があったら、また事務局のほうに、その都度申し出ていただければと思います。

最後ですが、次回開催についてですけれども、毎回情報共有を行っていますが、次回は1つくらいの方が無難でしょうか。これまでは、就労、それから重心、養護学校、精神の問題、地域間などのお話をさせていただきましたけれども、何か次のテーマのご提案ありますか？施策審議会はいつから始まるんですか？

(岡本課長)

あちらのほうは、年3回予定ということで、第1回目が7月か8月になると思います。

(平野会長)

皆さんは、障がい福祉計画そのものの作業内容をご存知ですか。この中での委員の重なりはあるのですか？

(岡本課長)

はい。重なりはあります。

(平野会長)

そうすると改めてここでテーマとして、やらなくてよろしいですかね。あまり面白くないかもしれませんね。他に何かご希望があれば言っていただいたらどうですかね。このネットワークの中でちょっと分野が違うので、我々の認識が届いていないというところの方で何かお話いただいたらと思いますが、どうでしょうか。

(岡本課長)

パルクとよたから事業内容等は紹介していただければどうでしょうか。

(平野会長)

よろしいですか。パルクとよたですと特別支援教育の関係でしょうか。パルクとよた、そのものことと特別支援教育に関して我々が知っておくべき内容についても、少しご講義いただいたらいいんじゃないかというふうに思います。あつかましいんですけども、よろしいですかね。それでは、鈴木委員にパルクとよたが担っている不登校の方への支援内容と特別支援教育、それらの取り組みのことについて話を聞きたいと思います。それでは、ちょっと時間をオーバーしてしまいましたけれども、議事のほうはこれで終了したいと思います。では事務局のほうよろしくをお願いします。

## <議題5 次回の協議会開催について> 【15：38】

(岡本課長)

第2回の協議会は、7ページにありますけれども、今年度8月下旬を予定しております。日にちにつきましては、日程を調整しまして、決まり次第文書で通知申し上げますのでよろしくをお願いします。それともう1点連絡事項ですけれども、今年の11月29日の土曜日に、豊田市地域自立支援協議会主催の1周年のシンポジウムを予定しております。このシンポジウムを通して、こんな活動を協議会はやってますよということ、今後はこんなようなことを考えてますよということを伝えていきたいと思っています。会場は市の福祉センターを予定していますが、また詳細が決まりましたら担当者会議のメンバーから次回の協議会でお知らせしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

それでは、今日は長時間に渡りましてお疲れ様でした。今日の会議でまだ発言ができなかったところがおありになれば、お手元の用紙に記入して、郵送でお送りいただければと思います。次回につきましても委員の皆様には、ぜひ協力していただきたいと思います。今日はみなさんお疲れ様でした。ありがとうございました。